



## ヌマヅの住まい

### STORY3

### “自然”を楽しむ暮らし 山本 哲也さん

まちなかから少し離れた、沼津御用邸記念公園の近くに山本さんは暮らしている。山本さんの実家は代々農業を営んでいて、大学を卒業後すぐに家業を継いだ。大好きな農業を長く続けていくために、まずは農業で稼ぐことが大事だと考えた。ビニールハウスを作り、安定的に作物を供給できるようにした。山本さんはトマト農家として美味しいトマト作りにこだわりを持って取り組んでいる。「これまでに色々栽培してきたけど今はトマト一本です。トマトはいろんな料理に使えるし幅があって需要がたくさんあると感じましたね。」



▲テニスコート3面分くらいの大きさのビニールハウスのなかにトマトの苗ずらりと並んでいる  
取材時には次の苗を植えたばかりだったので収穫の頃にどんな光景になるかが楽しみだ



▲山本さんの農場は「山本トマトファーム」  
収穫されたトマトは沼津市内のスーパーなどで販売されている他直販も行なっている

山本さんのモットーは食べてくれた人が喜んでくれるような自慢できるトマトを作ること。そのために栽培方法にはとことんこだわっている。超低農薬で肥料には魚を細かく砕いたものを使っている。驚くべきは水をほとんど与えないこと。そうすることで山本さんの作るトマトは味が濃く、人気を集めている。「店にトマトを卸しに行くとお客さんが『美味しいね!』と声を掛けてくれるのももっとも美味しいトマトを作ろうっていう気持ちになりますね。」山本さんのトマトを待っている人がいる。そのことがトマト作りを続けていく上でのモチベーションになっている。誰よりも美味しいトマトを作ろうと今日も励んでいる。



▲元気よく育っているトマト  
夏野菜のイメージが強いが実は5、6月が一番美味しいとのこと

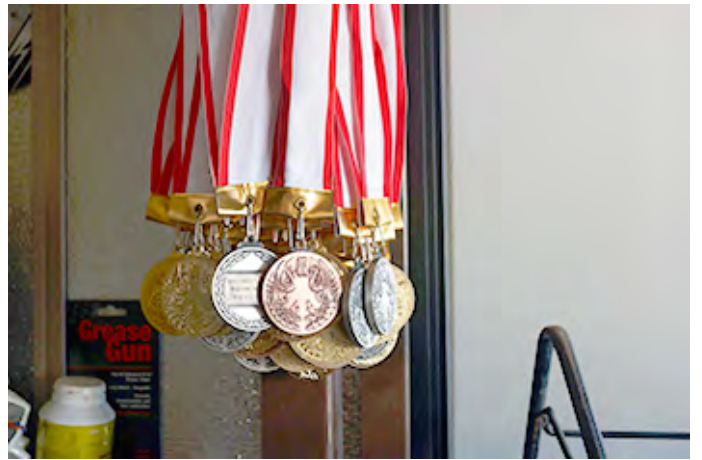
実は自転車競技の2017年全日本マスターズ スプリント部門におけるチャンピオンでもある山本さん。自転車に乗り始めたのは高校・大学と自転車競技部で活躍していた息子さんの影響が大きい。「息子の付き添いで練習を見に行っているうちに自分もやってみたいと思うようになって、友達に誘われていたこともあって自転車競技を始めました。実際にやりだしたら楽しくてがむしゃらに練習しているうちに気づいたらチャンピオンになっていました。」と笑う山本さん。

農家として忙しい日々を過ごしている中、一人のアスリー

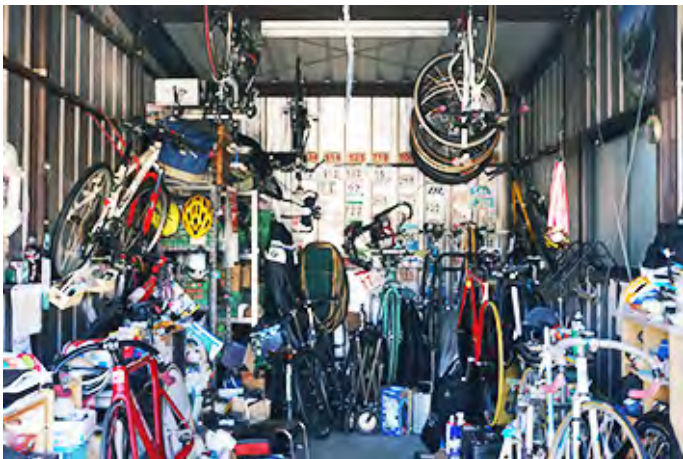
トとして空いた時間は短くても自転車の練習に取り組んでいる。5、6年前に仲間とともに立ち上げた自転車競技チーム「TEAM SM Bros.」には今では中学生から50代くらいの方まで年齢関係なく様々な人が参加し、自転車競技を楽しんでいる。「若い子からたくさんエネルギーをもらっています。僕たち大人は技術的な事などを若い子に教えてお互いに切磋琢磨しています。若い子たちが成長してくれるとそれが嬉しいし、まだまだ負けられないぞって練習を頑張ろうという気持ちになりますね。」



▲山本さんが全日本マスターズのスプリント部門で優勝した時の自転車



▲大会で獲得したメダルの数々



▲元々農具倉庫だった場所は今では山本さんの自転車部屋になっている



▲倉庫にある器具を練習外が暗くても練習できるので仕事が落ち着く夕方に練習するのが毎日の日課



▲倉庫前の大きな車は山本さんが購入したもので大会や遠征の時に使っている



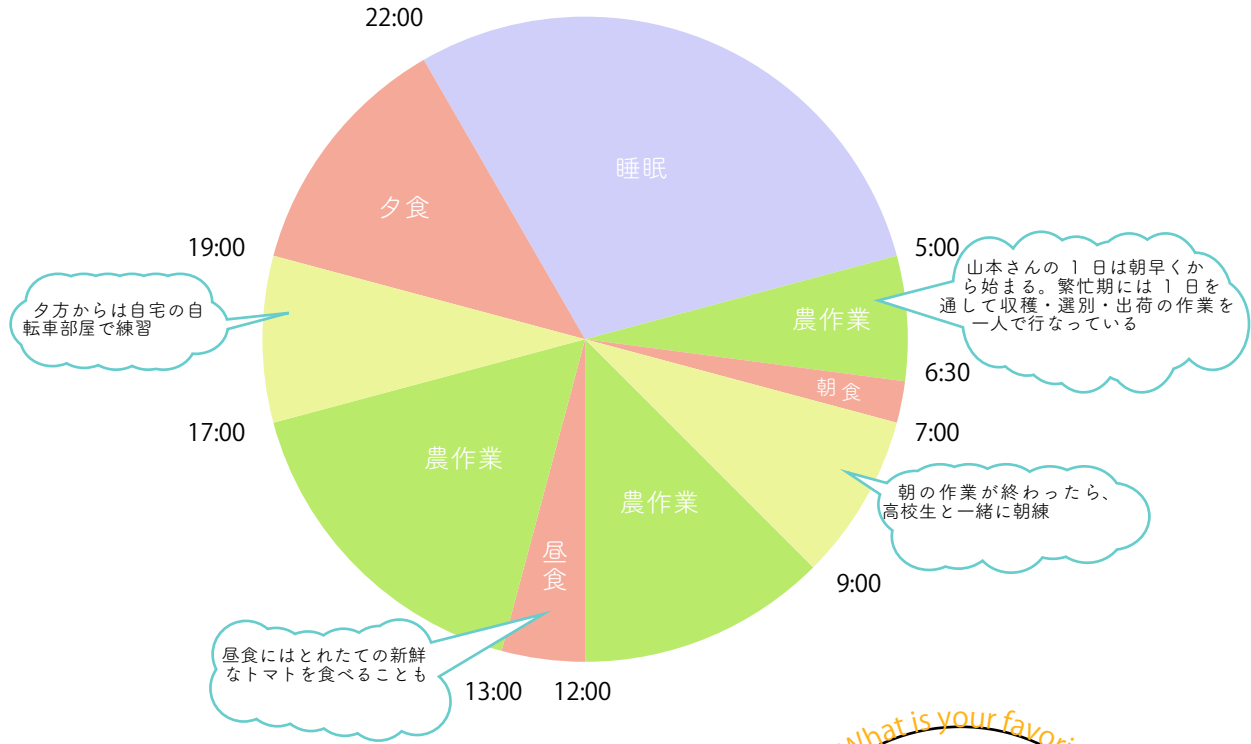
▲「自転車に乗らない日はないですよ。」と楽しそうに話す山本さん



自転車競技を初めてから10年も経たないうちに日本チャンピオンになった山本さんの競技人生はまだ始まったばかり。「僕が自転車競技を始めたのは40代半ばの頃。今年でもう52歳になるけどまだまだ現役ですよ。いずれは世界大会にも出てチャンピオンになりたいです。」毎朝5時から農作業をして、それが終われば伊豆の高校へ向かい自転車競技部の高校生と一緒に朝練をする。夕方に作業が終わっても自宅でも練習。一見するとハードな生活に見えるかもしれないが、山本さんはそれを楽しんで生活している。自転車以外にもバイク、釣り、シーカヤックなど色々な趣味を持っている山本さん。「人生一度しかないんだからなんでも楽しまなきゃ。農業

も自転車も他のことも楽しいし、好きなことだから続けられる。心の底から楽しむことが大事。沼津にはまちなかからちょっと離れると海沿いを気持ちよく自転車やバイクで走れる環境がある。海や川もあるから釣りやシーカヤックもできる。自然を生かした遊びがたくさんできるんですよ。沼津に住んでてよかったって思いますね。」

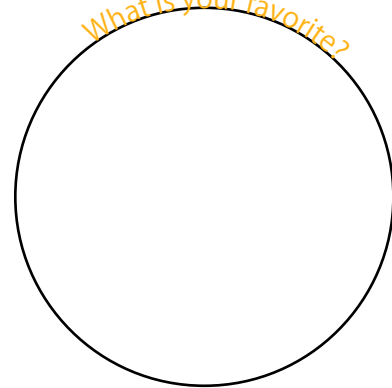
# 山本さんのある一日



## ひとことメモ

沼津には大きなテーマパークやショッピングモールなどはないかもしれない。しかし、海、川、山が一つのまちに存在し、それを楽しむための環境が整っている。まちなかから30分もしない距離に豊かな自然環境がある。沼津はそんな自然を存分に楽しむ暮らしを送るのにぴったりの場所なのではないだろうか。

What is your favorite?



山本さんのお気に入りには優勝した時の自転車と海が見える沼津の風景だ。